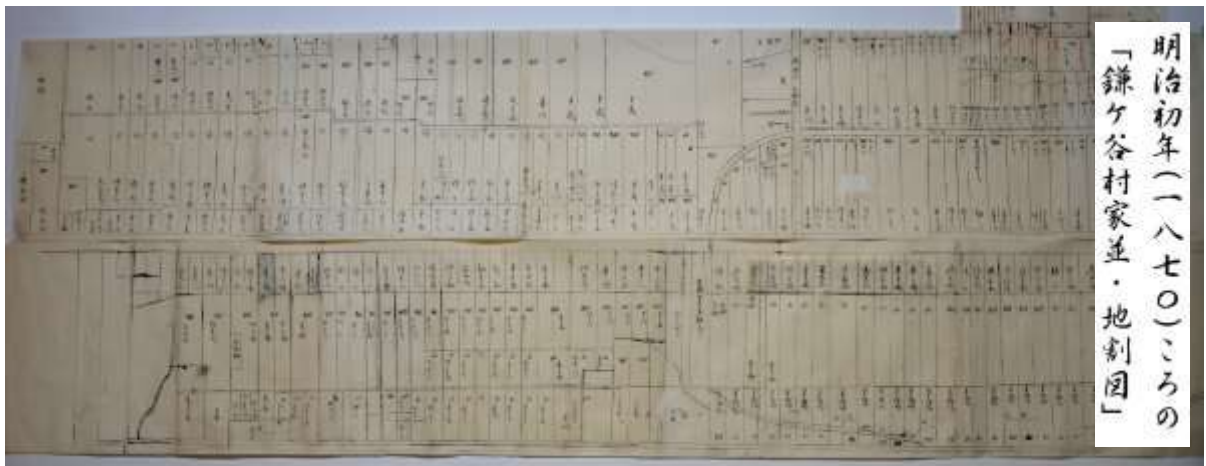


鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第65号

目次

- 徳田家より歴史資料など寄贈…… 1・2
- 収蔵資料展示 vol.25を開催…… 2
- 郷土資料館セミナーを開催…… 3
- 郷土資料館この一品⑳ …… 3
- 史料整理の現場から⑭ …… 4



徳田家より寄贈いただきました

歴史・民俗資料約 7,000 点

都市化が進む市内ですが、それでもまだ多くの歴史・民俗資料が残されています。郷土資料館では、平成28年度まで行っていた市史編さん事業から継続し、市内の資料調査や収集に努

めています。本年8月、その調査の中で確認されていた南鎌ヶ谷の徳田家に伝わる多数の歴史・民俗資料をご寄贈いただきました。

いただいた資料のうち、江戸時代の古文書を含む歴史資料については、すでに整理が終了しており合計で6,475点となります。これらの中には、従来ほとんど確認されていなかった江戸時代から明治初年にかけての鎌ヶ谷宿の関係史料が残されていました。特に、明和～寛政年間(18世紀後半)の4つの年代の「村明細帳」や明治初年の「家並み図」、村内寺社の「境内絵図」などからは、木下街道の宿場であった鎌ヶ谷の様子を詳しく知ることができます。

また、同家では、江戸時代後半に酒造を行っ

(2ページへ続く)



銭函

(1ページからの続き)

ていたことがわかりました。そして明治初年には、諸々の商いを多角的に経営していたことを示す史料も多数あります。さらには、明治30年代以降昭和30年代ごろまで、同家には市域唯一の郵便局が設置され、局の経営に関する貴重な史料も確認されています。珍しいものとしては、現在大仏墓地に所在し、市指定文化財となっている「官軍兵士の墓」の成立とその管理に関する明治～昭和期の史料もあります。

今回歴史資料と合わせてご寄贈いただいた民

具などの民俗資料は、現在整理中です。点数はおおむね500点を超えるとみられます。この中には、明治初年ころとみられる多数の箱入り食器類、郵便局で使用していた提灯、商いの場で使用していたとみられる銭函・唐傘・印半纏など貴重なものが含まれています。

なおこれらの資料は、すでに『鎌ヶ谷市史』に掲載、または郷土資料館の企画展などで展示したものもあります。今後は、展示や刊行物・ホームページなど様々な形で、さらに広く紹介していきたいと考えています。

収蔵資料展示 vol.25

澁谷 総司 直筆の史料 ～澁谷家旧蔵文書の紹介②～

郷土資料館1階の収蔵資料展示コーナーでは、昨年7月に郷土資料館へ寄贈・寄託いただいた、澁谷家文書の紹介を順次行っています。今回はその2回目として、新資料展示の開催に伴い、澁谷総司書簡(慶応2年(1866)、市指定文化財)の原本を特別公開します。また併せて、総司の筆跡とみられる史料を展示します。

総司は、佐津間村で代々名主を務めた澁谷

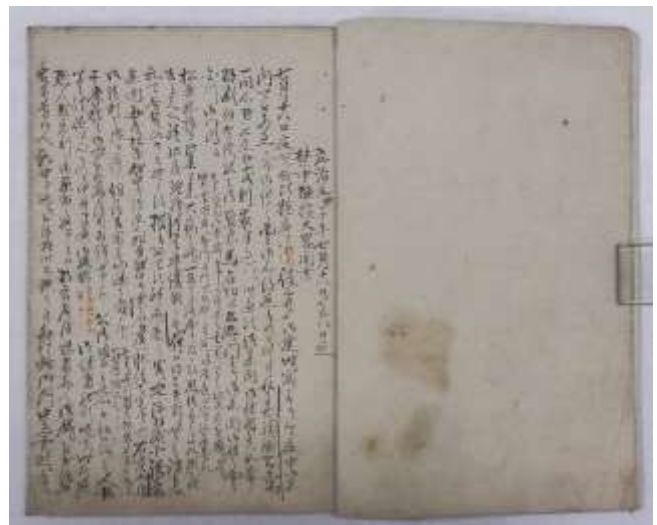
家の次男として、弘化3年(1846)に生まれました。幼名を清蔵といい、後に謹三あるいは謹三郎と称しました。「総司」の名は尊皇攘夷の志士として活動していた時の変名のひとつです。

展示史料のうち、安政6年(1869)の手習いには「清蔵」の名が、元治元年(1864)に書かれた『真書太閤記』の写本には「謹三郎」の名が見えます。また、同じく元治元年に書かれた「京都大略聞書」は、行方不明となっていた総司自筆の「手書」である可能性が高いものです。

総司直筆の史料が一堂に集まるこの機会にぜひ郷土資料館へご来場ください。



「真書太閤記」写本



手書「京都大略聞書」

房総の人と自然

鎌ケ谷市域を含む千葉県内には、今なお貴重な自然が残されています。これらの自然は、人間の生活や諸活動とは切り離せない関係にあります。今年度の郷土資料館セミナーでは、千葉県内を事例として、4回シリーズで人と自然の関係性について専門家に講義していただきます。この機会に県内の現状について理解を深めていただくとともに、保存と活用についても考えてみませんか。

対象 市内在住・在勤・在学の人

期日・テーマ(仮題)・講師

- ①12月8日(金)・「房総丘陵の自然」・尾崎煙雄さん(県立中央博物館上席研究員)

②12月24日(日)・「鳥類から見た都市と自然～ツバメ・スズメ・カラス・猛禽類の栄枯盛衰～」・唐沢孝一さん(NPO法人自然観察大学学長)

③1月7日(日)・「ホテルの環境から考える」・横田耕明さん(市環境課ビオトープ利活用推進指導員)

④1月21日(日)・「長田谷津(大町自然公園)のいま」・金子謙一さん(市川自然博物館学芸員)

時間 いずれも午後2時～4時

会場 図書館3階集会室

定員 各回60人(応募者多数の場合は抽選)

申し込み 11月24日(金)までに郷土資料館 ☎445-1030 (FAX:443-4502)へ。抽選結果は26日(日)までに連絡します

郷土資料館この一品②③

臼(うす)と杵(きね)

今回は、常設展示室の民具コーナーの最後の方に並んでいる臼と杵をご紹介します。

臼と杵は餅つきというイメージもあるため、だれもが一度は目にしたことのある道具かと思えます。臼と杵は一对の道具で、餅をつく道具として広く知られていますが、米の粳もみを取る道具として兼用することもあるようです。

展示している臼は直径64cm、高さが50cmあり、周囲は約2m15cmもあります。餅をつく部分は直径46cm、すり鉢状に23cmほどの深さがあります。重量があるため、複数人での運搬用に臼本体の下から30cmの高さに3方向指がかかるような切れ込みが入れています。材質は堅いとされるケヤキが用いられているようです。中にひび割れがありますが、長く使わなかった場合や、保管状況によってできてしまうようです。

杵には横杵とたてぎね縦杵の2種類がありますが、



展示している臼と杵

展示資料は横杵です。杵先(臼をつく太い部分)は長さ42cm、先の直径は約10cm、柄に近い部分の直径は8cmあり、先の方は、使用によって少し潰れています。柄の長さは全体で80cm、材質はケヤキのようです。

かつて市内では、餅つきは、12月28日～30日頃の間で行われ、正月の食用とお供え用で30～45kgついたそうです。終わると臼を逆さに伏せて、供え餅をしめのせたり、注連なわを飾ったりして正月を迎えたようです。

【史料整理の現場から⑭】

日記に書かれた 「110年前の飛行機飛来の記録」

昨年度寄贈いただいた史料の中に、大正9年（1920）から昭和8年（1933）に鎌ヶ谷村役場の書記などを務めた、津川象（以下、津川と略記）の日記があります。津川は明治35年（1902）から昭和19年にかけて、日記をつけていました。このうち昭和11年までの分は、「昨夢今幻」（「一」～「三」と「別記」の計4冊）と名付け、後年に編集・浄書したものです。主要な出来事が詳細に記されており、当時の市域周辺の歴史を知る上でも貴重な記録です。

今回ご紹介するのは、日本に動力飛行機が導入されて間もない大正2年、一般にはまだ珍しかった飛行機について書かれた記事です。当時八柱尋常高等小学校（現松戸市立東部小学校）の校長だった津川は、挿秧休暇（田植え休み）のため一人日直中だった校内で、午前9時頃2機の飛行機が松戸町矢切方面上空を飛び、国府台練兵場（原文では練兵所、現市川市）に着陸するのを目撃しました。明治43年頃初めて飛行機を見て2度目とあり、その1度目は、国内で初飛行が行われた、代々木練兵場（現代々木公園〈東京都渋谷区〉）での演習時（明治43年12月）のことと思われます。

日記にある国府台練兵場は、後の東練兵場（現在の市川市中国分一帯。戦後「東台」の名称で跡地を開拓）のことで、当時周辺に駐屯していた多くの陸軍砲兵などの部隊が、教練や演習などを行っていました。日記からは、練兵場内の平坦地を、飛行機が離着陸する場所として使用していたことが推測されます。なお、東練兵場では昭和2年に、葛飾村（現船橋市）の青年団・在郷軍人会の合同軍事演習が、飛行機も参加し



津川象の日記（大正2年6月18日）

て実施されています。また、現在の中国分3・5丁目あたりに、戦時中から戦後にかけてコンクリート製の滑走路があったという話も伝わっています。

日記が書かれた大正2年6月18日から21日にかけては、明治44年に開設された所沢陸軍飛行場（現埼玉県所沢市）の「第1期交通術修業員航空機操縦将校卒業飛行」で、所沢一國府台間（約7.6km）の飛行が行われていました。国内最初の卒業飛行で、操縦将校3名及び臨時操縦将校2名が卒業し、搭乗機は臨時軍用気球研究会（陸・海軍が設置した気球と飛行機の軍事利用研究会）製作の会式2号・3号・4号機でした。津川はこの時の飛行で、2機が着陸する瞬間を垣間見たものと思われます。

練兵場内が飛行場として使用されたのは、近隣では習志野原の陸軍練兵場（現八千代市・船橋市・習志野市の一部）も同様で、翌大正3年の卒業飛行は、所沢～習志野原間で行われています。旧小金牧及びその周辺に設置された軍用地に隣接する地域では、飛行機を目にする機会はそれほど少なくなかったのかもしれませんが。
※今回紹介した史料は、開催中の「令和5年度新資料展」で展示しています。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第65号 令和5年11月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html